

安来高校植物図鑑（2022年5月）

和名: アマドコロ（甘野老）

特別教室棟から体育館へ向かう渡り廊下の横、秋になるとツワブキの花が大量に咲く場所に、現在はアマドコロの花が大量に咲いています。ツワブキの葉を覆い隠すぐらいアマドコロの葉が茂っています。アマドコロの葉は見た目が良いので、生け花に使われていることがあります。白い鐘状の花がぶら下がっている姿は愛らしく、巨大なスズランみたいですね。オニド



コロという植物の根茎とよく似ていて、甘いことからこの名前になったそうです。でも掘り起こして食べる勇気はありませんが。この花が咲いていることを事務の中村さんが教えてくださいました。安来高校の植物分布については、私よりも中村さんのほうが詳しいかもしれませんね。



和名: オヘイチゴ（雄蛇莓）

花びらが5枚で黄色の花は何種類もあり、見分けるのが難しく困ります。私も以前から何度も悩まされてきました。やっとわかるようになってきたのがこのオヘイチゴです。根元から生える葉(正式には小葉)が5枚で、茎から生える葉が3枚(例外もある)なのが特徴です。蛇が食べる莓という意味のヘイチゴという植物があるのですが、それに似ていてさらに大型であることから雄という字が頭に付いたそうです。残念なのは、莓という文字が入っているのに莓の仲間ではないこと。赤い実はできません。



和名: コメツツメクサ（米粒詰草）

米粒という名前の通り、とても小さい花です。3mmほどの花がいくつか集合して、ボールのような塊を作っています。そして詰草という名前の通り、花の形はシロツメクサ(クローバーのこと)に似ています。花は咲き終わったあと茶色になるのですが、その様子もシロツメクサにそっくりです。群れて咲いてい



ることが多く、緑色の葉の中に黄色い花が点在している姿は大変美しいです。安来高校ではあちこちで見かけますが、小さいのでおそらく皆さんは気付いていないのだと思います。



和名: コウゾリナ (髪剃菜)

一見タンポポのような花ですが、タンポポよりはるかに背が高いため、違うことはすぐに分かると思います。髪剃(こうぞり)はカミソリのこと。この植物の最大の特徴は手触りです。右の写真のように植物全体に小さなトゲトゲが生えています。ルーペで見るとトゲの先端は二股に分かれているとのこと。これを手でさわると、まるでカミソリの刃で切られてしまうかのような、またはカミソリで切ったあとのひげを触っているかのような、ゾワッとした感触が残ります。この感触は一度経験しないとわからないことでしょう。私も何度か触ったことがありますが、その度に手を引きたくになります。



和名: ノヂシャ (野萵苣)



チシャというレタスのことになります。私のイメージでは焼き肉の時に包んで食べるあの葉っぱ。ノヂシャという名前を初めて聞いたときは、あの葉っぱとあまりにもかげ離れていて謎だったのですが、のちにノヂシャもサラダとして食べられていることを知りました。この花は大衆向けの植物図鑑にはあまり掲載されていないのですが、安来高校にはたくさん咲いています。ディズニーのアニメ「塔の上のラプンツェル」という作品をご存じでしょうか？

実はラプンツェルとはこのノヂシャのことなんです。由来を話すととても長くなるので、興味のある方はぜひインターネット等で調べてみてください。1つ1つの花はとても小さくて、直径2mmくらいでしょうか。淡い青色をしています。食べるだなんて、何だかもったいない。

和名: カキドオシ (垣通し)

この花は唇形花(花びらが上下に分かれ唇のような形をしているもの)です。安来高校には唇形花がたくさんあるので、見分けにくいことでしょうね。すぐ側には同じく唇形花のムラサキサギゴケ(2020年5月に紹介)も咲いていました。カキドオシは花が咲いているときは茎が立ち上がっていますが、花が終わると茎がつるのように地面を横に這い、一気に広がっていくそうです。その時に垣根をくぐって隣の土地まで伸びていくのでカキドオシなのだとか。葉は揉むと良い香りがするそうです。



今年も安来高校のツツジが咲き誇る季節になりました。私はいままでツツジとサツキの違いがわからなかったのですが、最近それを見分ける方法の記事が出ていました。咲く時期、花びらの厚さ、花の大きさなど、微妙に違うようですが、一番簡単なのはおしべの本数。5本ならサツキで、5本以上あればツツジだそうです。ならば5本の時はどうすればいいのだろう？と悩みましたが、とりあえず、左写真の個体はツツジのようです。